



「善行を積んでも救われないということ」

立石尚志

イースター・セレブレーションには多くの方が教会に足を運んでくださり、ありがとうございました！楽しい一時を皆さんと過ごすことができ、感謝でした。後日、ある方が礼拝での話しの内容を覚えていてくださり「善行を積んでも救われないのですよね」と言って来られましたが、大切なポイントを覚えていてくださり嬉しく思いました。

日本でもアメリカでも、生前に良い行いを積み、死後、天国に入れてもらえるかと漠然と信じている人が大勢います。自然な発想に聞こえますし、現に多くの宗教や人生哲学が「善行の原理」の上に成り立っています。そのような中で、聖書は「善行を積んでも人は救われない」ことをはっきりと語っているのです。ではなぜ、キリスト教徒が多いはずのアメリカで、逆のことを信じている人が多いのか、という疑問も湧いてきますが、残念ながら教会に定期的に通わず、聖書の教えを知らない人たちが多くなって来ているからなのです。それはさておき、そもそもなぜ、善行を積んでも救われないのでしょうか。

「善行」と言えば、神を礼拝し、人に親切にし、助け、施し、正しく行い、目上を尊敬し、悪口を口にしない等々、いろいろ挙げることができますが、皆、良いことのはずです。神は、このような良い行いに対して反対なのでしょうか。決してそうではありません。聖書ではこれらの善行はすべて、大いに奨励されているのです。では何がいけないのでしょうか？

それは「救われるため」とか「天国に入れてもらうため」に行う善行は間違っている、と言うことなのです。つまり、善行の「動機」です。どういうことでしょうか。「善行を積む」ことによって「何かを得よう」としている限り、その善行は究極的には「自分のためにしている自己中心的な行為」に成り下がってしまい、善行の対象となっている人さえ「私」が天国に行くための「手段」にしてしまうのです。また、そもそも善行を積むと、誰の目に一番成績があがるのでしょうか。善行を積んでいる本人です。積み上げた分、相手にいろいろと要求できる権利が生まれると錯覚し、しまいには、「これだけのことをし

ただのだから、神よ、あなたは私を天国に入れなければならぬ！」と叫んでしまうような恐るべき高慢の罪に陥ってしまうのです。善行によってかえって罪深くなってしまおうという「からくり」がここにあるのです。

聖書は私たちをこの「からくり」から自由にしてくれるのです。まず、全てを見通しておられる神の前に立ち、自分の胸に手を当てて素直に自分の心を見つめて見ましょう。してはならないことをしてきたこと、成すべきことを知りながらしなかったことなど思い出され、自分の罪深さが見えてくるはずですよ。嘘をついたこと、あんな人いなければいいと思ったこと、妬んだり、恨んだり、馬鹿にしたり、盗んだり、怠けたり…生きてきた年数だけ、罪がたまって来ていることもわかるはずですよ。

そんな罪深い私たちでも、ちょうど親が子供を無条件で愛しているように、神は私たちを、ご自身の創造物であるがゆえに、無条件に愛して下さっています。そして私たちが素直に「ごめんなさい」と告白して、神の赦しのプレゼント（…神の御子、イエスが十字架の上で私たちの身代わりになって罰を受け、死んでくださったこと）を感謝して受け入れるなら、神は、全ての罪を無償で赦し、新しく、やり直しの人生を歩ませてくださるのです。神は私たちが、善行のからくりには陥らないように、赦しも、救いも、天国も、すべて「ただ」にしてくださいました。

神の救いを体験した者には、当然、感謝があります。そしてその感謝から善行が生み出されてくるのです。このような善行は見返りを要求しませんし、自分ではなく、本当に他者のために行う善行ができるようになります。勿論、神はこのような善行を喜ばれるのです。それが次の聖書の意味なのです。

「あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。行いによるものではありません。だれも誇ることをないためです。私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」エペソ2:8~10 ■

「主イエスの十字架が分かった日」 山口 民英さん (グリニッチ教会員/昨年11月ウェルカム礼拝での証し)

私の名前は山口民です、本名はチョー民英、韓国人です。私が初めて教会へ行ったのは日本に留学した時のことでした。家族と離れ、一人で寂しく、自分の国の人が恋しかったので新大久保にある淀橋教会の韓国礼拝に行きました。私はまだ十代であり、親も心配して少し多めに仕送りしてくれていたもので、何不自由なく過ごしていました。ですから教会に行っても心から神に願わなければならないことは何もなく、ただ通っているだけの状態でした。菓子職人となるための学校を卒業して韓国に戻り、念願のお菓子屋さんに就職しましたが、自分が思っていた菓子作りと現実とがかなり違っていました。私はその環境に耐えることなど少しも考えず、悩みもせず、祈りもせず、いままでの生き方同様、お父さんをお願いしてなんと、自分のお店を出させてもらったのです。

自分の遊び場みたいなもので始まったお店でしたが、その状態は長くは続きませんでした。お父さんの事業が倒産したのです。私の遊び場はいきなり、家族を支える収入源となってし

まったのです。経験も浅く、社会経験もなかった私にとり、毎日かかってくるプレッシャーは耐えがたいものでした。いちばん辛かったのは毎月払わなければならない借金であり、逃げたくなる気持ちでいっぱいでした。毎週教会へ行っても聖書を読んでもその不安からは自由になれませんでした。

そのような状況が続いていたある日曜日、礼拝の中で「主の祈り」を皆で祈っていた時に「日ごとの糧を与えて下さい」というところを通して神様は私に語りかけてくださいました。「明日ためではなく、月末の返済でもなく、あなたは、今日の糧について感謝しているのか？」と問われました。その瞬間、何をしても消えることのなかった借金の不安や心配が嘘のように消えてなくなりました。神さまの恵みはこれだったのだ、と分かり、私の信仰は一步前に進んだのです。

しかし、その喜びと感謝は長続きしませんでした。サタンが私の心に「いつまでこの生活つづけるの？あなたはまだ20代なのよ。」とささやきかけてきたのです。この小さな疑問は波

紋が広がるように私の心の中でどんどん大きくなり、今までとは違う形の新しい苦しみを産みました。まず倒産して気力を失っているお父さんが憎くなりました。失敗者、情けない、なんで仕事を探さないの？と父に悪態をつくようになりました。また心の病を患ってしまった母親に対しても優しい言葉を一つもかけることができなくなり、「母親なんだから、心の病なんて冗談じゃない」と、神さまの霊に満たされていない私は毒の言葉を母に向けました。さらに「卒業と同時に結婚する」と妹が言い出したとき「おめでとう」という祝福ではなく、「一人で逃げて私に借金を全部押し付けるなんて卑怯者！」と叫びました。結婚するのでベッドでも買ってあげたいという母に「そんな金あるなら借金返さない！」と怒鳴ったほどです。それでも毎週教会に通っていたのですが、サタンに心を奪われていた私は、自分が家族の中で一番偉くなったような気になっており、家族には辛く当たる偽善的な生き方をしていました。

どのくらいそのような状況が続いたか、正直覚えていませんが、そのような中で、神様は再び、心の地獄から私を救ってくださいました。確か大晦日の礼拝だったと思います。主イエスは神の子であるにも関わらず、福音宣教を始める前に、お父さんであるヨセフの大工仕事をし、親であるヨセフとマリヤに仕えて恩返しをしたということが心に迫って来て、「私も、同じようにするのは当然ではないか」という気持ちにさせられたのです。もう一つ、神さまが気づかせてくださいました。私のお父さんはどんなに自分が苦しかった時でも、娘の私が何か欲しいと言えば、ただ娘であるから、という理由で叶えてくれたということです。もしそうなら、私が「天の父さま」と呼ぶ神様が私を苦しみの中にい続けさせるはずはないと、悟ったのです。信仰が進んだ二番目の大きな出来事でした。

ところが大きな問題が残っていました。私は家族をさんざん傷つけてきたのですが、私の力ではそれを修復することがど

うにもできなかったのです。そのような中で「私には何もできません。傷つけた家族の心を回復させてください。」という祈りが心から出てくるようになりました。それまでは借金を返すことが私の重荷、私の十字架だと思っていましたが、改めて、主イエスの十字架を見上げた時に、傲慢な私、妹に対する嫉妬…自分のいちばん見苦しい所が見えてきたのです。そして、主イエスが私のためにその十字架で亡くなられたことが分かったのです。それから毎日が反省であり、家族との関係の回復のために祈り、家族にも優しい言葉をかけるようになりました。

神さまは家族のためにすばらしいことをしてくださり、6年目には借金を返済でき、私とお母さんと妹との関係がまず回復し、お父さんとの関係は時間も掛かりましたが、回復しました。8年間失業していたお父さんにはソウルから離れた所に新しい仕事を見つけたり新たな出発ができました。私も苦しい思い出ばかりのソウルから離れ、新しい土地で新しい出発をさせて下さいと神さまに祈る中で、神さまは本当に奇跡を起こして、ニューヨークへの道を準備してくださったのです。

私たちの家族は何と運が良いのだ、という人もいます。しかし、両親も私も、これは運が良かったということではなくて、全て神さまが用意してくださったことなのだ、と心から受け入れました。2005年、アメリカに出発する際、妹は「お父さんとお母さんの世話をするのは、今度は私の番。お姉さんは何も心配しないでアメリカで本当にやりたいことを自由にやって」と言って私の背中を押してくれました。お父さんからは餞別までもらいました。今、私にわかることは神様が一番いい時に一番いい物を私たちに与えてくれることです。今もこれからも神様の臨在の中にいることが恵みであり、その恵みは毎日、毎瞬間、私の証しになると思います。(JIKI パティシエ)■



■2014年 夏の集会・行事予定■

※ 下記以外にも週の中に、入門クラス、聖書の学び会が定期的に行われています。お問い合わせください。

【定例集会】

- ★ 日曜礼拝／10:00～11:30
メッセージは託児室でモニターを通して聞く事ができます。ベビーシッターも致します。
- 礼拝後 **グループ会**／12:15 まで
大人、子供それぞれのクラスに分かれ、分かち合いの時を持ちます
- ★ ウェルカム礼拝／毎月最終日曜
- ★ 祈禱会／水曜日 10:00～12:00

【各種集会】

- ★ **ハリソン** 聖書を読む会
隔週火曜 10:00am 場所:ハリソン長老教会
- ★ **スタンフォード** 聖書を読む会
第二第四水曜午後 1:15 場所:井上宅
- ★ **ハートフォード** 聖書を読む会
隔週月曜午前 10:00
毎週木曜午前 場所はお問合せください

- ★ **グリニッチ** 聖書を読む会
次回ウェブでご案内します
- ★ **グリニッチ** グリニッチ家庭集会
次回ウェブでご案内します
- ★ **マウントキスコ** 聖書を読む会
毎週水曜 8:00pm 場所:平野宅
- ★ **ビジネススピール・バイブル・フェローシップ**
金曜日 7:45pm 場所:教会図書室

- **Dr.Michiko** による春の健康講座 5/20(火) 10:00～「花粉症・アレルギー」 ← webでご覧になれます
- **ウェルカム礼拝** 5/25(日)、6/29(日)、7/27(日) 10:00～11:30
ウェルカム礼拝は初めて礼拝に来られる方、キリスト教に関心ある方にとって入りやすい内容で構成しています。
- **生活・教養講座** 5/24(土)から毎週土曜日 (5回) 9:30～11:30
「アメリカと戦争」「聖書が教える男と女」「ユダヤ教と古代日本の関係」「聖書を読んでいたサムライたち」「現代アメリカを読む」

- **子供バイブルキャンプ** 8/19(火)～8/21(木)、9:00AM～2:00PM
今年は久々にオール日本語による夏の子供バイブルキャンプを行います！ 対象：キンダーから小学5年生まで
- **東海岸日本語キリスト教会合同ファミリーキャンプ** 8/30(土)～9/01(月)
テーマ「まことの豊かさを求めて」Catskill 最南端のすばらしい環境の中で、ともに神さまの恵みの御言葉を学びます。東海岸ボストンからワシントンまでの間に点在する日本語教会が合同で行うキャンプです。

★☆☆以上、すべて、詳しくは教会のウェブページにチラシ、案内がありますので、そちらをご参照ください。

《教会住所》グリニッチ福音キリスト教会 (Japanese Gospel Church of Greenwich)、 牧師 立石尚志
c/o St. Paul Ev. Lutheran Church, 286 Delavan Ave. Greenwich, CT 06830 website: www.jgclmi.com
《問い合わせ》 教会 TEL/FAX(203)531-6450、牧師宅 TEL/FAX (203)531-1609, e-mail: church@jgclmi.com

